

コウノトリが死亡しました

野外繁殖により増えたコウノトリ J0045 (2011年生れ、オス)の死亡が、4月11日に確認されました。その個体は、平成23年9月24日に豊岡市百合地地区人工巣塔から巣立ちした個体です。

それから、保護増殖センターで飼育していたコウノトリ J386 (2004年生れ、メス)の死亡が、4月27日に確認されました。

🍏 鶴見カフェのお知らせ

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」で行っています。お気軽にご参加ください。

(飲物・ケーキ代500円程度が必要です。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。)

🍏 平成24年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

毎月第3土曜日の午後1時30分から、ガイドウォークを行っています。

園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境(コウノトリ育む農法)などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後1時15分から正門前の掲示板横で受付ています。歩きやすい服装でお越しください。

🍏 コウノトリの個体数 (H24. 4. 30 現在)

1 飼育コウノトリの個体数

区分	オス	メス	計
県立コウノトリの郷公園	29	36	65
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	14	15	29
計	43	51	94

2 野外にいるコウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
放鳥コウノトリ	7	10		17
野外繁殖により増えたコウノトリ	7	19	3	29
野生個体		1		1
計	14	30	3	47

🍏 編集後記

この度、これまでご愛読いただいていた「いきもの通信」から、「コウノトリ通信」へとリニューアルしました。今までの園内の生き物の紹介やコウノトリに関する内容をさらに充実させ、より一層皆さんに読んでいただきやすいニュースレターにしていきたいと思っております。今後ともよろしく願い致します。

🍏 コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先
 兵庫県立コウノトリの郷公園
 〒668-0814 豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128番地
 TEL: 0796-23-5666
 FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
 ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
 開園時間 : 9:00~17:00
 休園日 : 毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

コウノトリ通信

(題字：山岸哲園長)

兵庫県立コウノトリの郷公園
 平成24(2012)年 5月 1日発行

No.1

野外コウノトリ 今年の繁殖行動



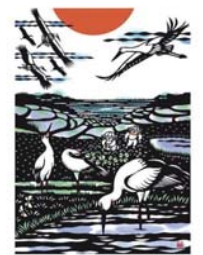
コウノトリ野生復帰グランドデザインの概要

コウノトリ野生復帰グランドデザインは、野生復帰の目的とコウノトリの歴史を踏まえ、5年間にわたる試験放鳥により得られた科学的研究成果を検証し、これらを基に、これからの本格的野生復帰を目指した短・中期計画と野生復帰の最終ゴールを提示するものとして、平成23年8月に策定されました。

これから少しずつこのグランドデザインの内容や、それに連して行われている
 グランドデザインの主な内容
 ・コウノトリの歴史と野生復帰の目的
 ・試験放鳥期間の研究成果
 ・野生復帰の必要条件とこれまでの取り組み
 ・目標設定と野生復帰のゴール

この紹介をしていきたく思います。

コウノトリ野生復帰グランドデザイン



平成23年8月
 兵庫県立コウノトリの郷公園

*コウノトリ野生復帰グランドデザインは、ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp からダウンロードできます。

研究員のないしょの話

このコーナーでは、郷公園の職員しか語れない、現場のできごとを紹介します。

野外でのコウノトリの信じがたい行動

兵庫県立大学 田園生態研究部 部長心得 大迫義人

人と共生を目指して、コウノトリを野生復帰させる取り組みが、2005年に兵庫県但馬地方で開始されてからはや6年がすぎました。この間に、野外のコウノトリたちは、私たちが知らなかった生態や行動を見せてくれています。その中には、科学的には説明できますが、市民感覚では信じがたい行動も数多く観察されるようになりました。今回は、同種内や親子間に起こった事件を紹介합니다。

隣の巣を襲撃する

2009年の繁殖期、あるペアが隣のペアの巣に飛来して、いきなりその中にいる雛に攻撃を加えました。この時は、雛もその成鳥にはむかい、大事にはいたらなかったのですが、9日後の2回目の襲撃で、1羽の雛が傷を負い、その後死亡してしまいました。

動物の世界では、同種の子どもを傷つけたり殺したりすることが多くの種で知られています。鳥類でもサギ類、ヒメアマツバメ、ツバメ、カルガモなどで観察されています。理由としては、繁殖のための、配偶者の乗っ取りや、なわばりの確保であると考えられています。確かに、襲撃したペアは繁殖に失敗していましたので、次の繁殖のためなわばりを拡大しようとして凶行に及んだと考えられます。しかし、同じ仲間のコウノトリが、しかも雛を襲い傷つけるとは、多くの市民にとってはショッキングな出来事となりました。

死んだ雛を食べる

同じく2009年の繁殖期、市民から、ある親鳥が、頭と脚があるものを飲み込んだと連絡がありました。撮影された写真を拡大すると、死んだ雛を親鳥が食べたことがわかりました。それまで、死んだ雛を巢外に捨てる行動は観察されておりましたが、その雛を親が食べるとは、誰も目が疑いました。この行動は、猛禽類(*)ではよく知られており、自分が産んだ卵や死んだ雛を食べることは、親からみれば投資した資源を回収するわけですから生物学的に言えば理にかなっています。しかし、死んでいたとはいえ、親鳥が自分の雛を食べることは、私たち人間からすると信じがたい行動であります。

生きた雛を捨てる

死んだ雛を食べることは、ある意味、仕方ないとは思えるのですが、2010年には、今度は、まだ生きていのに親鳥がその雛を巣から捨て去る瞬間が市民によって撮影されました。1羽目は、親鳥が、うごめく雛を嘴でくわえ上げて飲み込むような仕草すら見せました。そして、その雛は、その後、行方がわからなくなりました。2羽目は、親鳥が嘴でくわえ上げそのまま雛を巣から落としてしまいました(写真1・2)。その雛は、我々によって回収されて、死亡が確認されました。

自分の雛を捨て去る行動は、ヨーロッパのシュバシコウでも観察例がありますが、なぜそんな無惨なことをするのか、市民だけでなく私たちも理解に苦しんでいます。



写真1 生きたままの雛を嘴でくわえ上げるコウノトリ (撮影: 沢田賢一)



写真2 そのまま捨て去ったコウノトリ (撮影: 沢田賢一)

コウノトリの示す行動は、科学的には適応的と考えられても、一般市民にとっては、とても理解しかねることが多いようです。しかし、明日には死ぬかもしれない野生動物にとって、生存や繁殖のために最善の行動をとることは、十分考えられます。私たちの価値観や倫理観からすると信じがたい行動であっても、コウノトリという種が持っている社会であることは間違いありません。だとすれば、私たちは、彼らの自然な行動として見守ってゆくしかないと思います。

(*) 猛禽類: タカ目とフクロウ目の鳥の総称。鉤(かぎ)状の鋭いくちばしと鉤爪をもち、小動物や他の鳥を捕食する。

郷公園で確認したいきもの (3月1日~4月30日)

【貝類】 カリニ マンジミ マルタンシ	【昆虫類】 イトトンボの仲間 カゲロウのヤコ ガムシ コイムシ タイコウチ ハリガネムシ	カルガモ カワウ カワヘビ キビタキ キンクワシロ クサシギ コウノトリ(野生) コガラ コゲラ シジュウカラ ジョウビタキ スズメ セグロセキレイ ダイサギ ツグミ ツバメ トビ ハシブトガラス ハシボソガラス ヒトリ フクロウ ホオジロ マガモ メジロ	【哺乳類】 キクガシラコウモリ ニホンイノシシ(足跡) ニホンジカ	【爬虫類】 アオダイショウ シマヘビ ニホンシシガメ ニホンカナヘビ ニホトカゲ	【鳥類】 ツボスミレ トキワカリソウ ノジスミレ ハコバ フキトウ ミチタネツケバナ ミツバツチグリ ムラサキサギコケ ヤハズエンドウ
【甲殻類】 アマガサリガニ スジエビ ミナミヌマエビ	【両生類】 アカガエルの仲間(卵塊) イモリ シュレーゲルアオガエル トノサマガエル ニホンアマガエル ヤマアカガエル	【植物/主に開花中のもの】 《草本》 アリアケスミレ オオイワカガミ オオタネツケバナ キョウリクサ キランソウ シハイスマレ スミレの仲間 セイヨウタンポポ タチヌソフクリ タチツボスミレ	《木本》 アセビ キンキマメザクラ コハノミツバツツジ コブシ ササユウ ソメイヨシノ フジ マルバマンサク ヤマザクラ		



トキワカリソウ



ダイサギ



アカガエルの仲間(卵塊) シハイスマレ

